

5年生保護者様

子どもたちの未来のために

第3号

～選べる道を増やすには～

令和2年 4月24日(金)

港区立赤坂小学校

校長 齋藤 恵

5年学年主任 保坂 司

伸びるのはどんな子③～生活習慣の大切さ

今回のテーマは「勉強ができるから…と、生活態度を直さずにいると、結果的に学力は伸び悩む」です。

◎保護者からの驚きのクレーム

ある学校で6年担任になってすぐ、保護者からこのような手紙をもらいました。

『みんな、受験のために塾で夜遅くまで頑張っている。それに学校より先のことを学習している。内容も高度で難しい。勉強は大丈夫なので、授業中に遊んでも休んでいても、好きにさせてあげてほしい。』

授業中の態度が悪いので、学級指導をしたことに対する”要望“でした。『まさか!』と思われたことでしょう。これほどまでの主張は極端にしても、『勉強はできるから、態度の悪さは大目に見てほしい』という考えは、昨今珍しくありません。他の学校では「分かっているからヒマなんだ。授業中、手裏剣を投げたくらいで注意するな。」と逆に叱られたこともあります。冒頭のクラスも、塾通いの子が多く、勉強はある程度はできていました。しかし、授業が成り立っておらず、多くの子の学力は伸び悩み、このままでは受験は厳しいという状況でした。

なぜ学校より高度な学習をしているのに、学力が伸び悩むのでしょうか。原因はいくつかあります。その中でも大きなウェイトを占めているのが、私たち大人の態度です。上記の保護者のように、「結果」を重視し、「行動」を軽視する態度です。「行動」軽視の考えが、児童の発達を阻害することがあるのです。

◎学力が高く、意欲ある児童を育てるメカニズム

以下は、アメリカで行われた調査です。とても有名な調査で、児童の学力向上についての指針となっています。

等集団である A・B グループ両方に、一定時間、勉強をさせたあとにテストをさせた。

A・B グループの平均点は、ともに高得点だった。

A: 「いい点をとったね」と結果を褒めてもらった。 B: 「勉強したからだね」と行動を褒めてもらった

では、もっと難しい問題にチャレンジするかと訊くと…

A: ほとんどの子がチャレンジしなかった。最初より難しいのなら点数が悪くなると思ったからである。褒めてもらえないというリスクを避けたのだ。

B: ほとんどの子がチャレンジした。勉強したことを褒めてもらったので、勉強すればまた褒めてもらえると、さらに難しい問題にも意欲的に取り組んだ。

つまり、『結果を重視するより、行動を重視した方がさらに高いレベルの取り組みをするようになる』のです。

◎「行動」「過程」を評価する

今日のテーマを見てください。「勉強ができる」は結果です。「生活態度を直す」は行動です。この場合の行動とは、「真面目に」「毎日」「あきらめず」「協力して」「失敗を恐れず」「努力する」等です。それらを行動規範や生活習慣にすることが学力向上のカギです。当たり前の行動にしてしまうのです。

一方、結果がいいからと、態度の乱れをあまり気にしないことは、子供たちからすると「適当に済ませる」「やらないときがある」「あきらめる」「努力しない」という行動を、大人が認めてくれたこととなります。そのような低い意識で学習しても伸びません。反抗期に入る高学年では、めんどろに感じるが多くなり、「過程」を軽視し、「結果」主義になる子が増えてきます。でも…というより、だからこそ、伸び悩みます。「結果」も大切ですが、その前提として「行動」「過程」を重視することは、教育活動ではとても重要な要素なのです。